

平成十五年十一月

- 十一月十六日 協働大町ビルで開催された、秋田市六地区社協交流研究会に参加した。
- 十一月二十九日 築山社協だより第三十一号を発行し、全世帯に配布した。
- 十二月一日 歳末助け合い募金運動の推進。
- 十二月九日 赤い羽根共同募金の取りまとめが終わり、市共同募金会へ送金した。
- 十二月十四日 七十五才以上のひとり暮らし老人及び六十五才以上のねたきり老人二百四十七名にお茶を持参して、安否確認を兼ねた激励訪問を行った。
- 十二月十七日 地域福祉活動等研究会へ参加した。
- 十二月十九日 秋田市地域福祉計画第二回ワークショップを植山コミセンで開催した。
- 十二月二十七日 歳末たすけあい募金運動で示された地域の善意を、地区内の要援護世帯など対象者八十四名の方に、一律五千円を民生委員を介して届けた。

平成十六年

- 二月二十一日 協働大町ビルで開催されたBブロック地域交流研修会へ参加した。
- 二月二十三日 秋田市共同募金実績報告会へ参加した。
- 三月十四日 市民憲章などと一緒地域サロンの一つとして、築山児童センターでカラオケなどを楽しんだ。
- 三月十八日 文化会館で開催された地域福祉活動合同研修会へ参加した。
- 三月二十三日 みどり保育園の子どもたちと餅つきなどを楽しみながらひとり暮らし高齢者の集いを植山コミュニティセンターで実施した。

善意のご寄付

平成十五年十一月一日、平成十六年三月二十日

- ◎ 香典返し
 - 植山 大元町 佐藤 萬年様 五万円 (亡母 タマさん)
 - 植山 登町 菊地 登喜子様 十万円 (亡夫 実さん)
 - 南通みその町 高桑 博様 二十万円 (亡母 キンさん)
- ◎ 篤志
 - 五千円 城南園親の会様

主な表彰記録

- おめでとうございます。心よりお祝いたします。
- 県知事表彰 (交通功労)
 - 清治 清作 (植山愛宕下)
- 東北管区警察局長表彰 (優良運転)
 - 佐藤 哲郎 (植山南中町)
- 市長表彰 (自治振興)
 - 小柳 寛 (南通宮田)
- 県共募会長表彰 (奉仕功労)
 - 齋藤 尚子 (植山登町)
- 市社協会長表彰 (福祉功労)
 - 佐藤 連治 (植山南中町)
- 全日本交通安全協会会長表彰 (緑十字銅章)
 - 黒崎 寅雄 (植山愛宕下)
- 秋田警察署長表彰 (交通功労)
 - 加藤 三夫 (植山南中町)
- 市民憲章会長表彰 (住民活動)
 - 菅原 良子 (植山本町)
- 緑化推進会長表彰 (緑化功労)
 - 妹尾 克利 (植山南中町)
 - 石郷岡 繁 (植山太田町)

編集後記

◆ 築山社協だより「第三十二号をお届けします。地域活動は植山老人クラブと石塚老友会、それに植山太田町を紹介いたしました。地域の皆様にお知らせしたい情報がございましたらご連絡ください。

◆ 第一面には、最近の全国的な学童に対する事件に関して、築山小学校加藤校長先生よりお考えをいただきました。比較的落ち着いた地域ではありますが、絶対にあつてはならないことでもありますので、私達地域住民も学校と一体となって協力して参りたいものです。

◆ 社協が取り組んでおります共同募金、歳末たすけあい等ではご協力ありがとうございました。今後とも良い成果をあげられますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆ 「植山かまくら祭り」は天候にも恵まれ素晴らしい一日となりました。これから益々地域の伝統行事として続いて行くようお祈りいたします。

◆ 最後にになりましたが、原稿や写真をお寄せくださった皆様には心から感謝申し上げます。皆様のご意見を寄せてください。

- 編集責任者 樋渡 久孝
- 編集委員
 - 加藤 三夫 黒崎 寅雄
 - 神田 武
- 連絡先(事務局) 樋渡 久孝

築山社協だより

題字：茂林憲子
 第32号
 平成16年3月25日
 築山地区社会福祉協議会
 会長 高桑 博



最近、子供の連れ去り事件や校内に進入して子供に危害を加える事件が全国的に増加しています。子供の安全が脅かされる事態には由々しきものがあります。

築山学区は、地域でよく目が届く環境にあると思いますが、他地域からの人の出入りも多いエリアでもありますので、不測の事態に備えた事故防止対策を講じる必要性を強く感じているところです。

そこで、本校がこれまでに取り組んできた防犯体制について紹介しながら、地域ぐるみで子供たちが事故や事件に巻き込まれないネットワークづくりのためにも、地域の方々からのご協力とご支援をお願い申し上げます。

本校では、登下校や地域での活動における事故防止のための「通学路及び学区内危険箇所マップ」を作成して、親子が交通事故が発生しやすい地点や変質者が出没した場所等を確認し合っています。いざというときのための緊急連絡先が記載された「危険対応カード」も子供たちに携行させています。

夏休み前には、植山交番所と秋田署からの協力を得て、子供たちが変質者に遭遇した場合の身の安全確保と対処の仕方を学び合いました。十二月末には各学年で、「防犯ビデオ」を利用した学習会も行い、子供たちの意識を高めています。

校内での不審者進入時の子供たちの対処に関しては、三学期始業式で、植山交番所



子供が安心して暮らせる環境づくりを目指して

秋田市立築山小学校校長 加藤 俊悦

長様と秋田署署員五名の皆様からの協力により、児童代表参加型の寸劇による「防犯教室」を開催し、身を守る方法を具体的に指導していただきました。また、当日の午後には、教職員対象の「防犯研修会」を行い、不審者が校内に進入した場合にどう対処すべきかに関する講話と実技指導を受けました。

なお、次年度には、市内全小学校に警備員を配置して校地内をパトロールすることが秋田市議会で決定されています。

ところで、学校での前述の取り組みを地域諸団体の皆様に説明して、地域ぐるみの安全対策と健全育成への協力をお願いするため、「築山小学校地域フォーラム」を予定しました。その情報交換会では、学区内危険箇所の再確認、関係機関に対する信号機及び街灯の設置を呼びかけ、不審者対応に対する商店等への協力要請の必要性などに関する意見や提言が得られました。これらのことにつきまして、PTAと関係機関との協力体制を深めながら、実効性が高まる方策を講じてまいりたいと思っております。

最後になりましたが、四月から秋田市内小・中学校が、一斉に「二学期制」に移行することになります。子供たちが長期休み等で、地域の施設や商店等で体験学習や取材活動を行う場合もあります。学校からお願いを申し上げます。学校からお願いを申し上げます。学校からお願いを申し上げます。

頑張る太田町

榎山かまくら祭り
運動会・夏祭り
健康教室・胃ガン検診

運動会・夏祭り・健康教室

太田町は昭和三十年代から開発が進み、田畑が埋め立てられ、次々に新しい家が建つようになった。

当時は、特に住環境の整備が急がれており、昭和四十一年九町内約二百四十世帯が参加し、太田町連合町内会が結成され問題の解決に当たってきた。このような住民の結束が、次々と新しい行事や事業を成し遂げる原動力となってきた。

昭和五十二年、秋田市では初めて家庭バレーボールができる体育館と会議室を備えた町内会館を造り上げた。市から建設用地を借りると共に、整地を始め、小学校の解体材料や立ち木を譲り受けて製材したり、建築など殆どを地元の大工さん始め、地域住

民の労力奉仕で完成させたことには驚かされる。

しかしこの太田町でも少子高齢化が進み、世代交代が進むにつれ自分たちの住む地域社会に対する関心が希薄となってきたのは同じである。このような環境において、どのようにしていろいろな行事が続けられてきたのかと尋ねたところ、太田町連合町内会の樋渡会長は、「どの行事も継続していくことは難しいが、その火を消してしまえば、再び灯すことができなくなってしまうので、多くの方々の協力をいただきながら頑張つて行きたい」と、話されていたことに深く共感させられた。次にその行事を紹介することにする。

かまくら祭り盛大に開催

沢山の子どもたち集まる

十歳を祝う『1・2成人式』 榎山小学校

榎山かまくらは横手のかまくらと違い、四方を雪の壁で囲い、その上に合掌造りの屋根を組んだものである。

太田町が地元の子供会と手を組んで、明治の終わり頃途絶えたものを昭和五十年、六十七年ぶりで再現した。

今年も地元や築山市民憲章始め築山地区の多くの方々の協力を得て榎山かまくらを造り、去る二月十一日には築山小学校の子どもたちや保護者、引率の

先生、地元太田町や築山地区の人達など総勢三百人近い人々で賑った。

かつて、かまくら祭りが元服行事に由来することから今年には特に、十歳になる四年生を祝う『1・2成人式』も行われ、子どもたちを代表して太田町の二人が「将来の夢をかなえられるように頑張りたい」と抱負を語った。

その後、みんなで杵でついたお餅をいただき、子どもたちは榎山かまくらのお話を聞いたり、体育館ではケン玉やこま回し、お手玉やおはじきなどの昔の遊び、外では雪合戦やそり滑りなど時間を忘れて楽しそうに遊んでいた。

祭りの期間中、保育園の子供たちも大勢訪れてくれた。最終日には、各家庭から集めた古いお札やしめ飾りなどを焼く「どんど焼き」の炎が辺りを赤く染めて祭りを終えた。

町内広場の完成を期に運動会を開催してから昨年で三十四回目を迎えた。当初のように走り終えても山まで駆け上っていく勢いは無くなったが、競走よりはレクリエーション的な競技を中心に続けている。子どもたちと一緒に楽しむ夏休み行事として、時代の変化に合わせて益踊り大会、納涼の夕べ、夏祭りを実施してきた。昨年で六回目を数える夏祭りは野菜やスイカ、メロンなどの産地直売を始め、バザー用品の販売、ビンゴゲーム、輪投げ、金魚すくいなどがある。露店では焼き鳥やアルコール類の販売もあり、シートに腰を下ろし大きな車座になって思い思いに楽しんでいる。昭和六十年健康審査のモデル地区に指定されて以来、健康教室の開催や町内での胃ガン検診を続けてきた。平成二年からは、健康教室を近くの温泉施設や公共施設などを利用し、医師や市の保健士などの協力を得て、健康に関する学習なども続けている。



夏祭りのひとこま

共同募金

築山社協にとって大きな財源

赤い羽根共同募金と歳末たすけあい募金について
過去三年間の実績とその内容をお知らせします。

○共同募金活動は「住民相互のたすけあい」を基調とし、地域福祉の推進を実現するため、多様な活動を財源面から支援するものであります。

毎年十月から始まる赤い羽根共同募金は、地域の皆様や企業、学校、保育園などの温かいご理解とご協力により、目標額を上回る実績を続けさせていただいていることに対し、衷心より深く感謝申し上げます。

過去三年間の実績を見ると町内募金は、僅かばかり減少傾向を示しておりますが、個人の大口寄付金（千円以上）は増加しており、目標額に対する達成率も概ね百

赤い羽根共同募金

単位：円

	13年度	14年度	15年度
町内募金	1,966,400	1,912,900	1,881,200
個人大口募金	507,400	509,000	522,600
法人募金	62,000	57,000	61,000
学校・保育園等	53,520	63,099	55,372
合計	2,589,320	2,541,999	2,520,172
目標額	2,271,500	2,216,000	2,216,000
目標達成率	114.0%	114.7%	113.7%
一般配分金	837,820	845,999	824,172
地区活動所要額	520,000	520,000	520,000

歳末たすけあい募金

単位：円

	13年度	14年度	15年度
町内募金	541,360	528,090	495,425
地区配分金	450,000	445,000	420,000
	6,000×75世帯	5,000×89世帯	5,000×84世帯
諸経費	5,145	6,016	8,164
市共募への送金	86,215	77,074	67,261

十四パーセントとなっております。

地区活動所要額（五十二万円）は、築山社協が地区福祉活動の財源として要求したもので、目標額に対する達成率が百パーセントを超えなければいざなうことができないものです。当社協では、この所要額を含め八十万円を超える一般配分金をいただき、築山社協が行っている敬老会や地域福祉活動の大きな財源となっております。

○歳末たすけあいは、新年を迎える時期に地域住民の参加や理解を得て、支援を必要とする人たちが安心して暮らすことができるように、手を差し伸べる運動です。

募金額は、赤い羽根同様年々僅かながら減少傾向にありますが、地区内の母子家庭や要介護世帯、介護家族の方に贈らせていただいております。

なお、市共同募金会に送金したお金については、翌年赤い羽根共同募金の一般配分金に加算されて配分を受けております。

感謝のことば

歳末たすけあい

先日は、温かい御心をいただきありがとうございます。ございました。生活のため大切にに使わせていただきます。

子供と二人の生活ですが、多くの方に支えられ、守られて暮らして仕事をしたいける事にも本当に感謝しております。

笑顔忘れず、子供の成長を楽しみに頑張ります。 Yさん

先日は突然の暮れのボーナスに、とっても嬉しく思いました。

本当にありがとうございます。お陰様で、私たち親子にも少しだけお正月気分が味わえました。今年三歳の息子と二

人たくさん笑って、過ごしたいなあと思っております。地域の皆様はじめ、いろいろな人達に支えられ、助けられて生きていくことを忘れずに頑張っていきます。

築山地区社会福祉協議会の皆様のお志、本当に感謝しております。 Sさん

この度は、歳末たすけあい募金をいただきましてありがとうございます。

私たちは多くの方々に支えられ、守られ、何とか無事に過ごして来られましたことを本当に有難く思っております。

これからも、子供の成長を励みに頑張つて生きていこうと思っております。地区の皆様のおかげに感謝いたします。 Kさん

本当にありがとうございます。

地区の皆様のご善意で支えられている「歳末たすけあい募金」に対して、多くの感謝のことばが寄せられておりますので、その一部をご紹介します。



榎山かまくら 1/2 成人式